

避難の心得

いざというときのために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また、災害の危険性が想定される場合には、情報を入手して、特に災害発生のおそれがある場所にいる人は、早めの避難を心がけましょう。



状況により、早めに避難しましょう

この高潮ハザードマップの表面に掲載している避難者カードに必要事項を記入し、切り取って避難しましょう。



浸水時、自動車での避難は危険

普通自動車は約30cmの浸水で走行困難になります。浸水時、自動車での避難は危険です。



浸水時に長靴は厳禁

避難には運動靴が最適です。長靴は水が入ると歩けなくなります。動きやすい服装で避難しましょう。



避難者カードを用意しよう

事前に氏名、連絡先、避難先などを記載した避難者カードを持って避難しましょう。

※裏面の避難者カードをご活用ください。



持ち出し品は適度な分量で

非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。



家族には連絡メモを残そう

外出中の家族には、「〇〇へ避難する」などのメモを残しておくと良いでしょう。



集団で助け合おう

単独での行動は避け、近所の人たちと集団で安全な場所へ避難しましょう。



安全なルートで避難

避難先への経路は、川べり、地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。

高潮に関する注意報・警報の発表

高潮によって災害が起こるおそれのあるときは、「高潮注意報」や「高潮警報」が気象庁から発表されます。さらに、重大な災害の危険性が著しく大きい場合には「高潮特別警報」が発表されます。

種類	発表基準
高潮注意報	台風や低気圧等による異常な海面の上昇により災害が発生するおそれがあると予想したときに発表
高潮警報	台風や低気圧等による異常な海面の上昇により重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表
高潮特別警報	数十年に一度の強さの台風や同程度の温帯低気圧により高潮になると予想される場合に発表

警戒レベルと避難情報

避難情報等は、住民が情報の意味を直感的に理解できるよう、5段階の警戒レベルを用いて発令します。警戒レベルに応じて、適切な避難行動をとってください。なお、警戒レベルは低い順から出るとは限りません。いきなり「警戒レベル4 避難指示」を発令することがあります。

気象状況	気象庁等の情報				避難情報	住民がとるべき行動	警戒レベル
高潮による 浸水が発生		大雨 特別警報	災害切迫	氾濫 発生情報	緊急安全確保 必ず発令される情報ではない	命の危険 直ちに安全確保! すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。今いる場所よりも安全な場所へ直ちに移動する。	5
警戒レベル4までに必ず避難!							
台風最接近の 数時間前	高潮 警報	高潮 特別警報	土砂災害 警戒情報	危険	氾濫 危険情報	避難指示	危険な場所から 全員避難 台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。
暴風域に入る 数時間前	高潮警報に 切り替える 可能性が高い 注意報	大雨警報 洪水警報	警戒	氾濫 警戒情報	高齢者等避難	危険な場所から 高齢者等は避難 高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	3
台風最接近の 1日～半日前	高潮注意報	大雨警報 洪水警報	注意	氾濫 注意情報	—	自らの 避難行動を確認 ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	2
台風接近の 数日～1日前	早期 注意情報 警報級の 可能性	—	—	—	—	災害への心構えを 高める	1

水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、避難場所への移動(水平移動)だけでなく、近隣の高い建物や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)を行い、救助を待つという判断も必要です。また、土砂災害の危険性がある地区では、屋内でも山と反対側に避難することも必要です。



浸水後の避難での注意点



浸水時に歩ける深さは膝くらいまで。また、水深20cmくらいでも、流れが速い場合は危険を伴うことがあるので注意が必要です。



浸水により足元が見えにくくなることで、道路と側溝や水路等の区別がつかなくなります。長い棒などで深い場所がないか安全を確認しながら歩きましょう。